

京都教区創立 100 周年記念誌に向けた 歴史資料収集・保存プロジェクトについて

✦パウロ大塚喜直

京都教区は、2037 年に創立 100 周年を迎えます。この大きな節目に向けて、将来的に「京都教区創立 100 周年記念誌」を発行することを念頭に、各小教区をはじめ、京都教区内の活動団体、カトリック施設等に残されている歴史資料を収集・整理・保存する取り組みを始めます。

1 教区に残された「信仰の記憶」

京都教区内には、これまでの信仰の歩みを伝える多くの記録が残されています。記念誌、沿革資料、古い写真、典礼や行事の記録、聖堂や建物に関する資料、歴代司祭や修道会、信徒会、活動団体、カトリック施設等の歩みに関する記録、週報や広報誌、信徒・司祭・修道者・関係者の証言などは、京都教区の歴史を形づくってきた大切な「信仰の記憶」です。

2 資料の散逸を防ぐために

これらの資料は、担当者の交代、建物の改修、保管場所の変更、資料の劣化などにより、時間の経過とともに散逸するおそれがあります。100 周年記念誌の編集作業は、2033 年頃から本格的に始まることが想定されます。その時点で資料を探し始めても、すでに失われているものがあるかもしれません。そのため、今のうちから資料の所在を確認し、可能な範囲で保存しておくことが大切です。

3 資料の確認・整理とデジタルデータでの収集

本プロジェクトでは、資料を原則としてデジタルデータで収集します。各小教区、活動団体、カトリック施設等においては、所在が確認できる資料、散逸のおそれがある資料、すでにデータ化されている資料、歴史的価値が高いと思われる資料などを、まず可能な範囲で確認・整理してください。紙の資料や写真等については、可能な範囲でデータ化していただきます。

なお、歴史的価値が高く、散逸や劣化のおそれ大きい貴重な資料については、原本・現物の丁寧な保存をお願いいたします。

教区本部への具体的な資料提出方法・手順等については、今後あらためてお知らせいたします。

5 次の世代へ受け継ぐ信仰の財産

京都教区の 100 年の歩みは、困難の中でも信仰を守り、共同体を支えてこられた多くの信徒、司祭、修道者、関係者の歩みによって形づくられてきました。その歴史は、単なる過去の記録ではなく、次の世代へ受け継ぐべき大切な「信仰の財産」です。

京都教区創立 100 周年を迎えるにあたり、わたしたちの歩みを感謝のうちに振り返り、その恵みを未来へ受け継いでいくために、本プロジェクトへのご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

以上。